

大江健三郎『キルプの軍団』 注解

井 原 慶 一 郎

はじめに

本稿の目的は、一般読者や研究者が大江健三郎『キルプの軍団』を読む際に理解の助けになるような注釈を加えることである。筆者はディケンズ研究者であり、その視点を多く盛り込んだ注釈になっている。テキストは、岩波文庫版（2018年5月16日発行、第1刷）を使用する。注解を始める前に、初出と主な「テキストの異同」について述べておきたい。

『キルプの軍団』は「季刊へるめす」に5回に分けて連載された。ただし、83～125章は書き下ろしである。

- 1～13 「キルプの宇宙(1)」『季刊へるめす』第13号（1987年12月）
- 14～26 「キルプの宇宙(2)」『季刊へるめす』第14号（1988年3月）
- 27～45 「キルプの宇宙(3)」『季刊へるめす』第15号（1988年6月）
- 46～65 「キルプの宇宙(4)」『季刊へるめす』臨時増刊別巻（1988年7月）
- 66～82 「キルプの宇宙(5)」『季刊へるめす』第16号（1988年9月）
- 83～125 書き下ろし『キルプの軍団』岩波書店（1988年9月）

『キルプの軍団』の連載時のタイトルは「キルプの宇宙」だったが、単行本化の際に変更された。連載時から単行本になった際の最も大きな「テキストの異同」は、ディケンズの『骨董屋』の英語の引用に、オーちゃんによる日本語訳が加わったことである。例えば、8頁では、

"Kit was a shock-headed shambling awkward lad with an uncommonly wide mouth, very red cheeks, a turned-up nose, and certainly the most comical expression of face I ever saw. ... I entertained a grateful feeling towards the boy from that minute, for I felt that he was the comedy of the child's life."

上記の引用に、以下の一節と日本語訳が加えられた。

さて、長い外国語の引用に出くわすと、面くらわれるかもしれませんから、忠叔父さんの授業の後、ノートに書きつけておいた僕の訳文をそえることにします。一応、御参考までに！

《キットは、モジャモジャ頭の、ひよろひよろ歩く不恰好な若者で、並たいていじゃなく大きな口をしていました。とても赤い頬、上に向いている鼻、そしてかつて見たなかで確実にいちばん滑稽な表情をしているのでした。……その瞬間から、私はこの少年に良い気持ちをいだいたのです。というのも、私がかれのことを、子供の暮らしのコメディ版と感じとったからでした。》

他の比較的長い英語の引用も同様である（《 》で括られた部分が新しく加筆された訳）。大江は、「季刊へるめす」を購読している知的な読者であれば、英語の訳は不要と考えていたのかもしれない。あるいは、読者に、オーちゃんと同じように、辞書を引きながらディケンズを読む体験を味わってもらいたかったのかもしれない。

注解

7頁5行目 まずキルプという名前が Quilpの発音は【kwilp】。一般的なカタカナ表記は「クイルプ」または「クウィルプ」。

7頁8-9行目 現役暴力犯係長の叔父さん 忠叔父さんのモデルは大江健三郎の弟の大江征四郎。『キルプの軍団』執筆当時は、愛媛県警の警部補。

7頁15行目 ペンギン・クラシックス版のテキスト Charles Dickens. *The Old Curiosity Shop*. Ed. Angus Easson. Penguin Classics. Harmondsworth: Penguin Books, 1985. 1972年にPenguin English Libraryから出版されたテキストの新装再版。オーちゃんが参照するのはこの版の注。2001年からはNorman Page 編集による新版となり、注が改訂された。

8頁6行目 "Kit was a shock-headed *Old Curiosity Shop* (以下、OCSと略記), ch.1, p.49 (頁数はPenguin Classics [1985]による)。

10頁8行目 an Italian image lad OCS, ch.73, p.666. 注についてはOCS, p.719を参照。

20頁5-6行目 ディケンズが雑誌に連載した際の『骨董屋』は1840年4月から1841年2月まで計40回にわたって週刊誌「ハンフリー親方の時計 (*Master Humphrey's Clock*)」に連載された。「ハンフリー親方の時計」はディケンズが創刊し、すべての記事を執筆した雑誌で、当初は雑多な記事を掲載する予定だったが、長編小説を望む読者の要望に応え、第4号で掲載した挿話の続きとして第7号から『骨董屋』を連載した。

20頁6行目 カッターモールという人とブラウンという人の挿絵 『骨董屋』の挿絵を担当したのは、ジョージ・キャタモール (George Cattermole [1800-1868]) とハブロット・ナイト・ブラウン (Hablot Knight Browne [1815-1882])。加えて、サミュエル・ウィリアムズ (Samuel Williams [1788-1853]) とダニエル・マクリース (Daniel Maclise [1806-1870]) も1枚ずつ挿絵を提供している。

20頁6行目 溺死したキルプがうちあげられている絵 OCS, ch.67, p.621. 注についてはOCS, p.717を参照。



"The Death of Quilp" by Hablot Knight Browne (Phiz). Wood engraving. *The Old Curiosity Shop*, Chapter 67.

21頁11行目 "Hope and patience, OCS, ch.2, p.65.

21頁13行目 "an elderly man of remarkably OCS, ch.3, p.65.

24頁12行目 「ヴィクトリア朝の差別」というようなことを書いた本 出典不明。

37頁7行目 clear eyeのなかに浮ぶ涙 OCS, ch.1, p.45. "That, I must not tell."も同頁。

39頁8-9行目 ネリー、おれのナンバー 2になることを OCS, ch.6, p.93.

40頁3行目 ネルさんは汚らしい OCS, ch.6, p.95.

40頁16行目～41頁1行目 なになになったら？ 乞食に？ OCS, ch.9, p.122.

41頁14-15行目 キルプが出て行ったネルと出会いそうになるところ OCS, ch.27, p.276.

43頁15行目 五一章のはじめの方にも 大江(もしくはオーちゃん)の勘違い。正しくは、「三一章」。

45頁6-7頁 ネルの持っていた^{あり}金すべてスッてしまうシーン OCS, ch.29-30, p.297.

46頁1行目 "She sat and listened. OCS, ch.31, p.303.

57頁5行目 quite overjoyed OCS, ch.11, p.139.



"The Legal Gentleman Named Brass" by Hablot Knight Browne (Phiz). Wood engraving. *The Old Curiosity Shop*, Chapter 11.

58頁2行目 Nell's very fond of me. *OCS*, ch.13, p.157.

60頁7行目 「パンチとジュディ劇」の巡回見世物師 *OCS*, ch.16, p.180. 注については*OCS*, p.689を参照。

60頁15行目 さてペンギン・クラシックス版の挿絵では *OCS*, ch.16, p.181.



"Punch in the Churchyard" by Hablot Knight Browne (Phiz). Wood engraving. *The Old Curiosity Shop*, Chapter 16.

61頁4-5行目 身長ほどもある竹馬に乗ったふたりと *OCS*, ch.17, p.192.



"The Grinder's Lot" by Hablot Knight Browne (Phiz). Wood engraving. *The Old Curiosity Shop*, Chapter 17.

64頁9行目 "Jolly Sandboys"という名前についておる註 OCS, ch.17, p.194. 注についてはOCS, p.690を参照。

66頁5行目 サーカスの芸人たちが泊りあわせて OCS, ch.18-19, pp.200-206.

66頁16行目 『^{オン・ザ・ロード}道路の上で』 アメリカの小説家・詩人ジャック・ケルアック（1922年～1969年）が1957年に出版した小説。邦訳タイトルは『路上』（福田実訳、河出書房新社、1959年）、のち『オン・ザ・ロード』（青山南訳、河出書房新社、2007年）。

70頁13行目 アイドル歌手の百恵さん 山口百恵（1959年～）は、14歳で芸能界デビューした、1970年代を代表する日本のアイドル歌手。

97頁10行目 キルプがしつこく犬を苛める場面 OCS, ch.21, p.228.



"Quilp defies the Dog" by Hablot Knight Browne (Phiz). Wood engraving. *The Old Curiosity Shop*, Chapter 21.

97頁16行目 お前は愉快なやつだジョリー・フェローな OCS, ch.21, p.227.

105頁15行目 「幻庵やしき」 日本オリエンタリング協会主催の「第13回東日本オリエンタリング大会」（1987年1月18日開催）で実際に使用された地図。岩波文庫版『キルプの軍団』のカバーには「幻庵やしき」の画像の一部が掲載されている。カバーの袖の説明によれば、「オリエンタリング地図「幻庵やしき」の一部を加工。神奈川県オリエンタリング協会提供」。

112頁5行目 兵陵 誤植。正しくは「丘陵」。

129頁11行目 アブラハムとイサクの話 『旧約聖書』「創世記」第22章1～19節および『コーラン』第37章「整列者」102～111節を参照。

131頁14行目 オーウェンの詩 ウィルフレッド・オーエン (Wilfred Owen [1893-1918]) による反戦詩「老人と若者の寓話 (The Parable of the Old Man and the Young)」(没後1920年発表)。この詩はベンジャミン・ブリテンの『戦争レクイエム』(1962年)で使用されたことで有名になった。

148頁6-7行目 ネルと老人が学校の先生の家に世話になっている部分 OCS, ch.24-25, p.248-262.

156頁1行目 音楽家のTさん 武満徹 (1930年～1996年)。日本を代表する現代音楽家のひとり。大江が20歳の時からの友人で、『キルプの軍団』が連載された『季刊へるめす』の編集同人でもあった。

156頁4行目 絵でいえばT・Sさん おそらく司修（つかさ・おさむ、1936年～）のこと（「修」を「しゅう」と読んでS）。多くの大江作品の装丁・装画・挿絵を手がけた。

156頁10行目 Y君のような英文学者の友達 山内久明（1934年～）。東京大名誉教授で、専門は英国ロマン派の詩。大江とは東大駒場時代からの友人で、1994年のノーベル文学賞受賞講演「あいまいな日本の私」を英訳した。

158頁15行目 ある決まった先生 渡辺一夫（1901年～1975年）。東京大学名誉教授で、専門はラブレーを中心とする16世紀フランス文学。大江は高校在学中に渡辺の『フランス ルネサンス断章』（岩波新書、1950年）に感銘を受け、東大仏文科への進学を決めた。

162頁7行目 いま見ても大変きれいな葉ではないでしょうか？ オーちゃんの兄の台詞が太字ゴシック体になっているのは、そのモデルである大江光（大江健三郎の長男）が、自分が言ったとされる台詞を探しやすくするため。エッセイ「私が、もう、闘いましたからね！」（大江健三郎=文、大江ゆかり=画『ゆるやかな絆』所収、講談社、1996年、153頁）を参照。

190頁10-11行目 きみのお母さんの側のお祖父さんは、映画監督のIさんでしょう？ 映画監督の伊丹万作（1900年～1946年）。長男はエッセイスト・俳優・映画監督の伊丹十三、長女は大江の妻の大江ゆかり（1960年に結婚）。

191頁14行目 『虐げられし人びと』のネリー 『虐げられし人びと』は、1861年にドストエフスキー（1821～1881年）が発表した長編小説。オーちゃんが読む新潮社の「決定版ドストエフスキー全集」版のタイトルは『虐げられた人びと』（第4巻、小笠原豊樹訳、1979年）。ドストエフスキーがディッケンズの愛読者だったことはよく知られている。ドストエフスキーは、『骨董屋』のネルへのオマージュとして『虐げられし人びと』のネリーを書いた。

193頁15-16行目 I・M氏が志賀直哉の原作で作った映画 伊丹万作脚本・監督『赤西蠣太』（1936年）のこと。原作は志賀直哉の同名の小説（1917年）。

194頁4行目 I・M氏の文章 伊丹万作「カタカナ随筆」の一編「論文」。大江健三郎編『伊丹万作エッセイ集』（ちくま学芸文庫、2010年）所収。

196頁6行目 「^{そぼく}素樸について」という論文 中野重治の評論「素樸といふこと」（1928年）。『ちくま日本文学全集39中野重治』（1992年）に「素樸ということ」というタイトルで収録されている。

201頁3行目 『骨董屋』の、foundrymanつまり鋳物工場の炉の係のことを書いた部分 OCS, ch.44, p.418-420. 注についてはOCS p.706を参照。



"Watching the Furnace Fire" by
Hablot Knight Browne (Phiz).
Wood engraving. *The Old
Curiosity Shop*, Chapter 44.

206頁15行目 《「もうたくさん、ワーニャ、よして」 新潮社「決定版ドストエフスキー全集」第4巻『虐げられた人びと』より引用（第1部・第8章、45頁）。

207頁13行目 《出しぬけに何やら奇妙な生きものが 同上（第1部・第10章、60-61頁）。

211頁2-3行目 この小説自体、重症の床についているかれが物語っている、という動機づけだからね 大江が『キルプの軍団』と同時期に書いた『新しい文学のために』（岩波新書、1988年）に類似箇所がある。「たとえばひとつの作品が、どのような手づきで書かれることになったか、それを…作品自体のなかで、読み手と共通の了解事項とする「動機づけ」（9「読むと書くとの転換装置（一）」、111頁）。

211頁6-7行目 それにさ、小説の部分、部分で、苦しい悲惨なことが書いてあるのに、読む方では心がたかまると感じないか？ 同上。「小説の内容においてはいかにも悲惨な物語、暗い話でありながら、それでも確かな励ましを受けとめることなしに、そこに書きつけられた文章、あるかたまりとしての文章、さらには小説の全体を読み終ることはできない」（14「カーニバルとグロテスク・リアリズム」、175頁）。

211頁13行目 犬が突然死んでしまうと 新潮社「決定版ドストエフスキー全集」第4巻『虐げられた人びと』（第1部・第1章、13-14頁）を参照。

214頁2行目 "Dostoevsky's Dickens—A Study of Literary Influence"という本 Lorelee MacPike, *Dostoevsky's Dickens: A Study of Literary Influence* (Barnes & Noble Books, 1981). デイケンズのドストエフスキーへの影響を論じた研究書。二部構成で、第1部では『骨董屋』のネルと『虐げられし人びと』のネリー、第2部では『デイヴィッド・コパフィールド』のスティアフォースと『悪霊』のスタヴローギンを比較している。

215頁13行目 "No, no," cried Nell *OCS*, ch.10, p.135.

215頁16行目 "Let us beggars, and be happy." *OCS*, ch.9, p.122. 大江（もしくはオーちゃん）の引用ミス。正しくは、"Let us be beggars, and be happy."

216頁11行目 マクパイクは、ネルが塔から落ちる夢を見たことを指摘し MacPike, *Dostoevsky's Dickens*, p.60. ネルの「塔から落ちる夢」については、*OCS*, ch.30, p.301を参照。

218頁1行目 "If he were to die *OCS*, ch.9, p.120-121. MacPike, *Dostoevsky's Dickens*における引用は p.80。

220頁6行目 "'Forgive you—what?' said Nell *OCS*, ch.12, p.147. MacPike, *Dostoevsky's Dickens*における引用はp.83-84。

238頁4行目 "'And this, like every other trouble *OCS*, ch.67, p.619.

239頁15行目 『激突』という邦題だったかな 1971年のアメリカのテレビ映画『激突!』(*Duel*)。スティーヴン・スピルバーグ監督の長編デビュー作。

250頁5行目 "Dickens and Popular Entertainment"という本 Paul Schlicke, *Dickens and Popular Entertainment* (Allen & Unwin, 1985). 第4章 ("The Old Curiosity Shop: The Assessment of Popular Entertainment", pp.87-136) で『骨董屋』について論じている。

251頁16行目 見世物小屋のようなものだった、とっています Schlicke, *Dickens and Popular Entertainment*, p.96-103.

255頁6行目 「パンチとジュディ劇」のパンチがキルプだというんですね Schlicke, *Dickens and Popular Entertainment*, p.124-131.

255頁14行目 "hemmed in by a legion of Quilps" *OCS*, ch.27, p.278. シュリツクの引用は*Dickens and Popular Entertainment*, p.113を参照。"legion"は、ラテン語の"legio"＝「選ばれた兵士団」が語源で、レギオンともいい、古代ローマでは「軍団」を表す言葉として使われていた。また、『新約聖書』のなかでは「悪霊」を表す言葉としても使われている（「マルコによる福音書」第5章1-20節を参照）。

257頁15行目 エイゼンシュテインの『ヴィヴァ・メヒコ!』セルゲイ・エイゼンシュテイン監督の『メキシコ万歳』（ソビエト映画／1931年撮影・1979年完成／モノクロ／上映時間1時間26分）。「プロローグ」と「エピローグ」を除き、4つの挿話から成るオムニバス映画（ただし、4つ目の挿話は未撮影）。「メキシコ万歳」は、1930年末から1932年の初めにかけて、エイゼンシュテインがメキシコで撮影した作品である。しかし…さまざまな事情から、この作品は未完成の状態で、そのネガが長い間アメリカで保存されたままになっていた。そして、およそ半世紀を経た後、メキシコへ同行したエイゼンシュテイン・スタッフの唯一人の生存者〔グリゴリー・〕アレクサンドロフの手によって、エイゼンシュテインの構想に忠実に編集され、ようやく完成したものである。だから、エイゼンシュテインが撮影し、アレクサンドロフが完成した「メキシコ万歳」というのが正確な表現かもしれない（『メキシコ万歳』映画パンフレット〔岩波ホール、1980年〕、4頁）。

259頁9行目 この宇宙のなにもかもをからかう意志の象徴 『キルプの軍団』の『季刊へるめす』連載時のタイトルが「キルプの宇宙」であることに注目されたい。

263頁9行目 クルークシャンクという人の絵 *Schlicke, Dickens and Popular Entertainment*, p.126.

267頁10-11行目 黒と赤の地に"SITUATION"というズンドーの文字が印刷された表紙 情況社発行の新左翼系の月刊誌『情況（SITUATION）』だと思われる。1968年8月創刊、1976年12月休刊。

273頁10-11行目 それは自分をromantic heroと見たてているんだと *Schlicke, Dickens and Popular Entertainment*, pp.131-136.

273頁16行目～274頁1行目 親切にしてくれたスイヴラーが病気で倒れた危機に、地下室から抜け出して来た少女が看病する *OCS*, ch.64, pp.579-589.

274頁2-3行目 on the fringes of society にある少女の、かえって中心的な連中のものごとを逆転させる強さ 大江『新しい文学のために』に類似箇所あり。「道化は、世界の秩序をひっくりかえす。上下の秩序を転倒させる役割をはたすかと思うと、天と地のようにかけはなれたものを、かえってむすびつける役割をはたす」（11「道化＝トリックスター」、137頁）。「文化人類学者Yさん」は、山口昌男（1931年～2013年）。主著は『文化と両義性』（岩波書店、1975年）で、「中心と周縁」理論で知られる。『季刊へるめす』編集同人。

274頁16行目～275頁1行目 それでもスイヴラーはキットが逮捕されたこと自体を気の毒がって、ビールを差入れてやるね OCS, ch.61, pp.561-562.

275頁6-7行目 気の弱い弟は白状するけれど、姉さんはがんばるシーンも愉快だし OCS, ch.66, pp.601-611. 事務弁護士 Sampson・ブラス (Sampson Brass) とサリー・ブラス (Sally Brass) の姉弟または兄妹。

275頁16行目 「罪のゆるし」、和解という大きい主題 「罪のゆるし (forgiveness of sin)」は、イギリスの詩人ウィリアム・ブレイクが『エルサレム』(*Jerusalem: The Emanation of the Giant Albion*, 1804-20) のなかで使用した言葉。イエス・キリストが十字架に磔になることで人類の罪が贖われたという思想を表している。大江健三郎の短編連作小説『新しい人よ眼ざめよ』(1983年)の最後の一編「新しい人よ眼ざめよ」に、この言葉(「罪のゆるし」)をめぐるとある。^{フォーギヴネス・オブ・シン}

278頁9行目 一方の党派が、他方の党派を襲って負傷させる、最悪の場合は殺してしまいさえするいわゆる「内ゲバ」のこと(「ゲバ」は「ゲバルト [Gewalt=力、暴力]」の略)。「極左集団の、とくに学生運動の諸派間で、対立、抗争から生じる実力闘争や暴力事件」(『精選版 日本国語大辞典』小学館、2006年)。

284頁7-8行目 浅間で捕まった指導者「連合赤軍」の最高幹部だった森恒夫(1944年～1973年)のこと。

305頁11-12頁 ドストエフスキーにそういう一節があったと思うけど おそらくドストエフスキーの短編小説「おかしな男の夢」(1877年)で、主人公兼語り手の男が夢のなかで自殺した直後の描写を指す。『作家の日記4』(小沼文彦訳、ちくま学芸文庫、2009年)所収。

351頁6-8頁 ある期間…ひとりの詩人か小説家を原典で読み、またおもに英語圏の学者による、その研究書を読んでいます 「三年間、ひとりの文学者、思想家に的をしぼって読む、ということになさい」というのは、恩師の渡辺一夫のアドバイス。三年間の読書を「いかに切りあげるか」について、大江はこう述べている。「そこで僕は二年目を過ぎたあたりから、いつもその時現在読み続けているものに喚び起された主題を小説に書くことで、自分なりのしめくりをつけることにした。このようにして、マルカム・ラウリーについては『^{レイン・ツリー}雨の木」を聴く女たち』を書き、ウィリアム・ブレイクについては『新しい人よ眼ざめよ』を書き、ダンテについては『懐かしい年への手紙』を書いた。ディケンズについては『キルプの軍団』を、フラナリー・オコナーをめぐる『人生の親戚』を書き……。大江が「ディケンズの全作品を通して読んだ」のは「ブレイクを集中して読んだ時期の後」。大江健三郎『新年の挨拶』(岩波書店、1993年)所収のエッセイ「カトーの蘭草」および「^{イノセンヌ}無垢なもの」、光の音楽」を参照。

353頁6-7行目 大きい兵隊の人形が——キルプの部屋に置いてあったやつと同じものです OCS, ch.62, pp.564-566. キルプの会計事務所に置かれた船首像の上半身。キルプはこの船首像をキットに見立てて攻撃を加える。



"Revenge is Sweet" by Hablot Knight Browne (Phiz). Wood engraving. *The Old Curiosity Shop*, Chapter 62.

354頁6行目 地獄と煉獄の間の海峡の、複雑な水路を走っている夢 「地獄と煉獄の間の海峡の、複雑な水路」は、ダンテの『神曲』（1307-21年作）ではアケロン川と呼ばれ、作中、ダンテとウェルギリウスは、死者の魂を地獄へと渡す、渡し守のカロンのボートに乗って地獄に渡る。

363頁8-9行目 私家版で本にすることになり 『大江光ピアノ作品集』（1988年）。「卒業：小学校の卒業の日に 1978.3」を始め、全16曲の楽譜を収録。

363頁13行目 『卒業』というピアノ曲 1992年に日本コロムビアよりリリースされた大江光の最初のアルバム『大江光の音楽』（CD）に「卒業（バリエーション付）」というタイトルで収録されている。

371頁10-11行目 ディケンズが小説の終りに（ちょっと長すぎるけど）愉快な後日談を加えるのに習って OCSではch.73, pp.663-672を参照。

373頁6-7行目 Such grace, coupled with such dignity! *Nicholas Nickleby*のch.25を参照。

375頁13行目 the comedy of the child's life 大江（もしくはオーちゃん）はこの句を「子供の暮しのコメディ版」（8頁16行目～9頁1行目）と訳している。そして、大江は『キルプの軍団』の「あとがき」（「読み・書くことの治癒力（あとがきにかえて）」）のなかで、この訳に対して「ディ

ケンズの研究者である地方の女性」から疑問が呈されたことを明かし (the childは「子供 (一般)」ではなく、「少女ネル」を指す)、「私のやり方で翻訳するのではなければ、小説の構想の主要な部分が成立しない」と述べている (381頁9行目)。大江がそう述べた理由は、the comedy of the child's lifeという句が『キルプの軍団』のプロットの要約になっているからだと思われる。すなわち、『キルプの軍団』は、子供あるいは少年を主人公にした「喜劇」(ハッピー・エンドを目指して進行する物語)なのである。その裏返しとして、the tragedy of the adult's lifeは、原さんの運命を示している。おそらく大江は『キルプの軍団』のプロットにダンテの『神曲』のプロットを重ね合わせたかったのだろう (『神曲』[原題*Commedia*]は地獄から煉獄をへて天国へ至る「喜劇」)。そのために「創造的誤読」(poetic misreading)をしたのだと考えられる。

※筆者は2024年8月24日 (土)、朝日カルチャーセンター京都教室において「大江健三郎『キルプの軍団』を読む (オンライン)」と題した公開講座をおこなった。その内容の一部を配信サイトnote (<https://note.com/ihara69/m/m7ca9de8a0040>) で公開しているので、本稿と併せて参照されたい。